

精密金型メーカーから“プラスチック精密成形総合システム会社”へ

不二精機株式会社
決算説明資料
証券コード6400



2016年4月7日HP公開

www.fujiseiki.com

2015年12月期の決算の説明と今後の展望などをご説明いたします。

会社概要

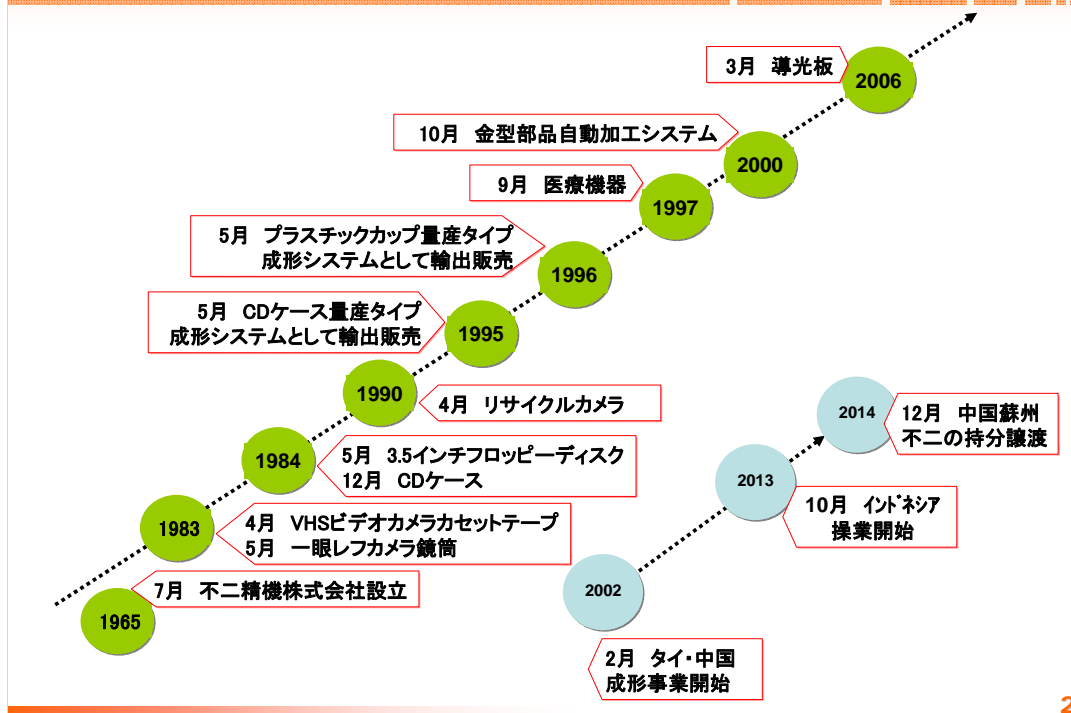
PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

1

当社の概要を紹介いたします。

沿革(主力製品の推移)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



2

当社は、1955年の創業以来、「精密金型」ひとすじに物づくりを行ってまいりました。

1984年頃からは、成形品1個当たりのコストが重視される大量生産品向けの金型が主力製品となりました。

1995年頃より、金型単体での販売だけでなく、顧客が求める成形品を生産するために必要な生産設備(金型、成形機、取出し機、自動組立機等)も併せての販売(成形システム)が主力製品となりました。

さらに、現在の金型事業においては、金型より生産される成形品そのものの精密さを求められる、デジカメ等のズーム部分である鏡筒向けなどの精密金型および大量生産品である注射器等医療機器向け・食品容器向けの精密金型及び成形システムが主力製品となりました。

初の海外進出を果たした2001年より成形品生産を開始しました。2007年頃より、二輪・四輪車の主に燃料噴射装置部品等の生産を開始し、中期戦略である自動車部品の売上構成比率の拡大を着実に進めております。

2013年10月より不二精機インドネシアの操業を開始し、東南アジアでの二輪・四輪用成形部品の受注拡大を目指しております。

2014年12月には、欧州の大手電機メーカーの新仕様のCD(コンパクトディスク)ケースの受託生産を主力事業として2002年3月に設立した中国:蘇州不二精機有限公司は、当社グループとして中期的に目指す自動車関連部品等の小物精密成形品の製造に適さないこともあり、固定費の圧縮および投資資金の回収を図ることを目的に富優技研(維爾京)股份有限公司へ持分の全部を譲渡しました。

海外製造拠点

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

上海



設立：01/09
稼働開始：02/03

■光学機器用、自動車用などの精密成形品の製造を担当

THAI



設立：01/01
稼働開始：02/03

■自動車用などの精密成形品の製造を担当

常州



設立：02/11
稼働開始：03/10

■医療用、グループ内向けなどの精密金型の製造を担当

INDONESIA



設立：12/10
稼働開始：13/10

■自動車用の精密成形品の製造を担当

3

2001年より海外展開を進め、中国/常州に精密金型製造会社のほか、中国/上海、タイ、インドネシアに3拠点の成形品製造会社を稼働させております。

なお、2011年10月に発生した洪水により操業を停止したタイ不二精機は、2011年12月から移転した新工場で操業しております。

さらに、アジアでの自動車生産拠点の集中化に対応し、2012年10月に設立した不二精機インドネシアは、2013年10月より二輪・四輪部品等の成形品の生産を開始し、順調に増産を続け、早期の黒字化を目指しております。

2015/12月期決算の概要

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

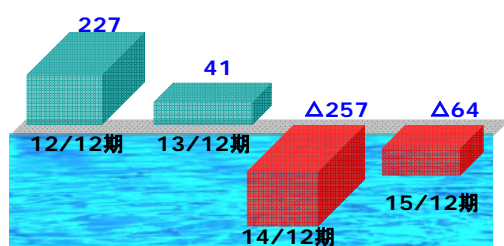
4

2015年12月期の決算の概要についてご説明いたします。

15/12月期決算の概要(連結) PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

(百万円)	14/12月期	15/12月期	増減額	増減率(%)
売上高	5,234	5,539	305	5.8
営業利益	54	189	135	245.4
経常利益	26	△53	△79	—
当期純利益	△257	△64	193	—

◇当期利益の推移



・医療機器用精密金型に加え、インドネシア、タイ、上海での自動車関連成形品の受注増などで増収を達成

・蘇州不二の赤字消滅とインドネシアの創業赤字減少で営業増益達成。インドネシアルピア安などによる為替評価損94百万円計上により経常・当期赤字となる

5

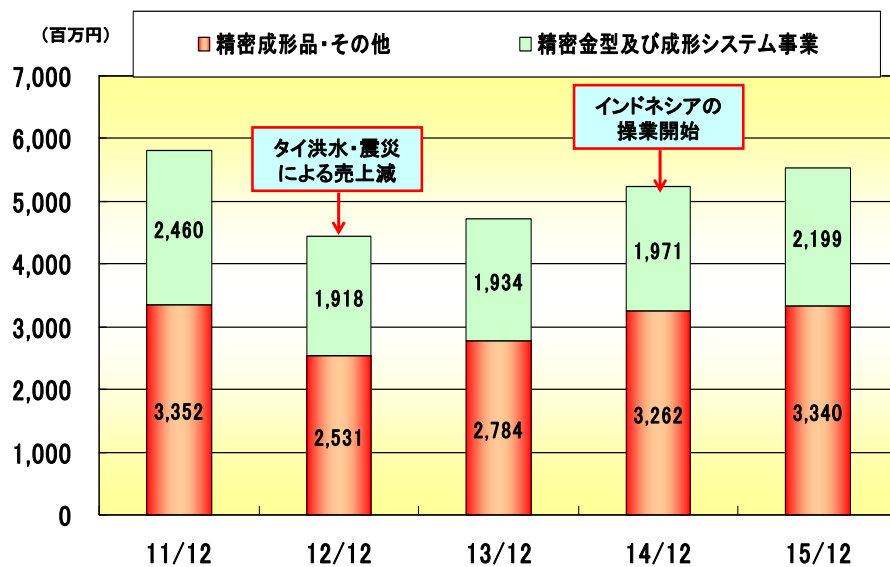
2015年12月期の売上高は、慢性的な赤字を解消するため、前年グループ外へ持分譲渡した蘇州不二精機分の減収がありましたが、医療機器用精密金型に加え、操業開始2年目のインドネシアやタイ、上海の各子会社での自動車部品用精密成形品が増加したことなどにより、前期比3億5百万円(5.8%)増加の55億39百万円となりました。

営業利益は、蘇州不二精機で発生していた赤字が消滅したこと、および操業開始2年目のインドネシア子会社の創業赤字が計画通り減少したことなどにより、前期比1億35百万円(245.4%)増加の1億89百万円となりました。

経常利益は、中国の人民元の切り下げに端を発したインドネシアルピアおよびタイパーツ安によって、親会社(当社)からの円建て債務などの評価替えて発生した為替差損94百万円を営業外費用に計上したことなどにより、前期比79百万円(前期は経常利益26百万円)の減少し、経常損失53百万円となりました。

当期純利益は、経常損失の発生により64百万円の損失(前期は蘇州不二精機の譲渡損失2億43百万円を計上し2億57百万円の損失)となりました。

セグメント別売上高の推移(連結) PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



6

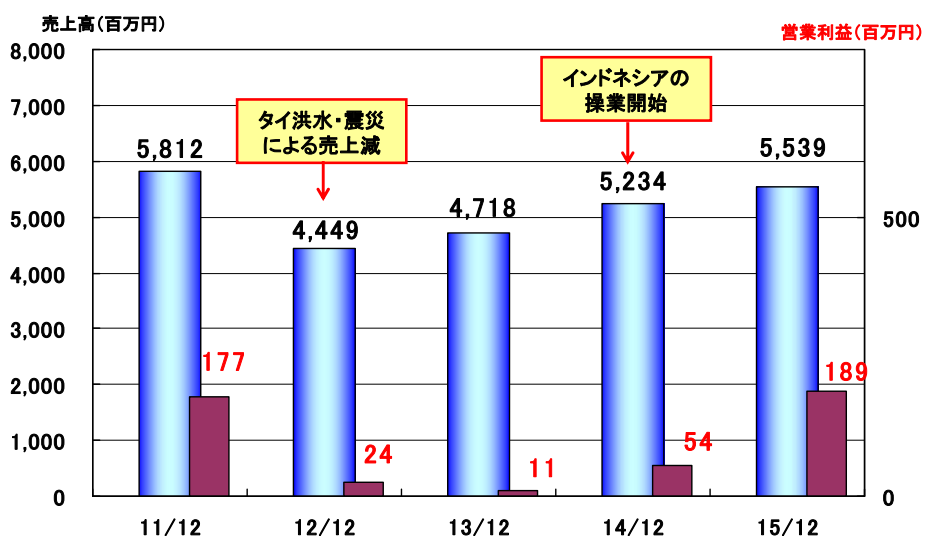
<射出成形用精密金型及び成形システム事業>

2015年12月期は医療機器用金型が増加したことなどにより、売上高は21億99百万円(前期比11.6%増)となりました。

<精密成形品その他事業>

2015年12月期はインドネシア、タイ、上海各子会社で自動車部品用成形品が増加したことなどにより、売上高は33億40百万円(前期比2.4%増)となりました。

売上高と営業利益の推移(連結) PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



7

2015年12月期の売上高は、慢性的な赤字を解消するため、前年グループ外へ持分譲渡した蘇州不二精機分の減収がありましたが、医療機器用精密金型に加え、操業開始2年目のインドネシアやタイ、上海の各子会社での自動車部品用精密成形品が増加したことなどにより、前期比3億5百万円(5.8%)増加の55億39百万円となりました。

営業利益は、蘇州不二精機で発生していた赤字が解消したこと、および操業開始2年目のインドネシア子会社の創業赤字が計画通り減少したことなどにより、前期比1億35百万円(245.4%)増加の1億89百万円となりました。

B/Sの主な増減科目(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

(百万円)	14/12月期		15/12月期		増減額	コメント(主要因)
		構成比		構成比		
流動資産	3,414	53.3	2,967	49.9	△447	
現金・預金	829	12.9	684	11.5	△145	
受手・売掛金	1,312	20.5	1,228	20.6	△84	受取手形減少
棚卸資産	731	11.4	687	11.6	△44	仕掛品減少
固定資産	2,875	44.8	2,898	48.7	23	
資産合計	6,411	100.0	5,951	100.0	△460	
流動負債	3,277	51.1	3,346	56.2	69	一年内償還予定社債の増加
支払手形・買掛金	848	13.2	771	13.0	△77	買掛金減少
固定負債	1,883	29.4	1,490	25.0	△393	長期借入金減少
負債合計	5,161	80.5	4,837	81.3	△324	
純資産合計	1,250	19.5	1,113	18.7	△137	利益剰余金減少
負債・純資産合計	6,411	100.0	5,951	100.0	△460	

自己資本比率 18.7%

8

総資産は、前年度末に比べ4億60百万円(7.2%)減少し、59億51百万円となりました。

流動資産は、売掛債権(受取手形・売掛金)、棚卸資産の圧縮に努めたことなどにより、前年度末に比べ4億47百万円(13.1%)減少しました。

固定資産は、海外子会社での自動車向け成形品用金型への投資、国内での金型製造設備の更新投資を実施し、前年度末に比べ23百万円(0.8%)増加しました。

負債合計は、借入金・社債の返済を3億9百万円実施したことなどにより、前年度末に比べ3億24百万円(6.3%)減少し、48億37百万円となりました。

純資産は、当期純損失64百万円、および為替換算調整勘定の減少71百万円が発生したことにより、前年度末に比べ1億36百万円(10.9%)減少して11億13百万円となりました。なお、自己資本比率は、前年度末に比べ0.8ポイント減少して18.7%となりました。

キャッシュフローの状況(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

(百万円)	14/12月期	15/12月期	増減額
営業活動によるキャッシュフロー	176	241	65
投資活動によるキャッシュフロー	▲127	▲111	16
財務活動によるキャッシュフロー	▲139	▲248	▲109
現金及び現金同等物の期末残高	827	684	▲143

キャッシュフロー要約

営業活動

営業利益の増加に対応した資金を確保しております。

投資活動

インドネシアの成形設備などへの投資を継続しております。
(蘇州不二の譲渡代金2億41百万円を回収しております)

財務活動

長期借入金・社債の返済を計画的に実行しております。

9

営業活動では、キャッシュフローに影響しない為替評価損の発生により当期純利益は64百万円の赤字となりましたが、営業活動による資金は減価償却費2億85百万円の実施などにより2億41百万円を確保しました。

投資活動では、蘇州不二の譲渡代金の回収2億41百万円がありました。一方で金型製造設備への投資資金のほか、タイ、上海及びインドネシアでの自動車関連成形品の新規受注に対応する増産のため成形機を中心とした投資資金の支払を実施しております。

財務活動では、長期借入金および社債の返済を計画通り進め、2015年度末の借入金・社債の残高目標30億円以下を達成しております。

基本事業戦略

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

10

基本事業戦略についてご説明いたします。

◆基本戦略

将来にわたる収益確保のため
「金型専業」から「成形事業」へ
収益の柱のシフトを目指します

当社グループは、将来的に市場規模の縮小が想定される「金型事業」から、当社の金型技術がなくてはできない付加価値の高い成形品を選択した「成形事業」へ収益の柱のシフトを目指しております。

◆なぜ成形事業か

成形品は儲からない？

成形事業は、独自ノウハウの活用で
高収益事業化が可能です

“高生産性・収益性”の金型設計・製造
ノウハウを持つ不二精機グループだから
実現できる！

12

当社のコア技術である「高生産性・高収益性」の金型技術と、中国、タイ、インドネシアの各成形工場の品質及び生産管理技術を融合させることにより、成形事業を安定的な高収益事業化を進めてまいります。

◆高収益性金型のポイント

- | | | |
|----------|-----|----------|
| ①ハイサイクル化 | ・・・ | 1成形の時間 |
| ②多数個取化 | ・・・ | 1成形当りの個数 |
| ③材料低減化 | ・・・ | ランナー重量減 |
| ④歩留り向上 | ・・・ | 良品率向上 |



13

①「ハイサイクル」とは、成形機に搭載された金型に熔融樹脂を注入～冷却工程にて金型内の樹脂を固化(金型形状の転写)～金型を開いて成形品取出し～型閉め工程を「1サイクル」とし、この一連の工程(サイクル)を高速化させることをハイサイクル化といえます。

このハイサイクル化を実現するためには、金型の高精度化に加え、金型冷却のノウハウや成形技術ノウハウが必要となります。

②「多数個取」とは、成形機の大きさに応じて決まる金型の大きさの制約の中で可能な限り多数の製品を配置する金型技術です。

また、多数個取金型は、製品寸法のバラツキを発生させないため、高精度加工、冷却回路等、非常に難易度の高いものづくりが要求されます。

③「材料低減」ー 成形機で熔融させた樹脂を金型内に射出後、金型内に掘り込まれた湯道を通り、金型内の製品掘り込み部分に転写させますが、この湯道が「ランナー」と呼ばれています。(例:プラモデルの枠の部分です)

「ランナー」は製品を成形するために必要ではあるものの、製品には必要がなく、いわば成形工程における「材料ロス」です。

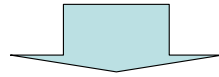
当社ではこのランナー重量(太さ・大きさ等)を、可能な限り少なくし安定した品質が実現できる金型づくりを行っております。

④良品率を向上するためには、金型の精度はもちろん、成形技術ノウハウが必要となります。

当社では、長年蓄積した金型完成後の試作データを元に、さまざまな特性を持つ樹脂成形にもそのノウハウを活かしております。

◆連結利益目標達成への課題

- ①国内金型市場の縮小への対応
(顧客の海外生産シフト)
- ②成形品事業の受注変動リスク低減
(安定稼働を目指した製品への集中)



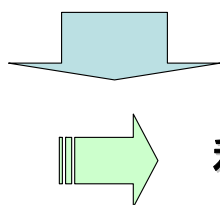
年間平均稼働率を高める

連結利益目標の達成に向けての課題は、製造業の海外生産シフトが進む日本の金型市場への対応および安定した稼働が利益に直結する成形品事業での受注変動リスクの低減であると考えております。

◆課題への対処

- ①医療・食品分野への集中(金型事業)
(顧客ニーズへの対応により新規受注獲得)
- ②営業活動の重点シフト(成形品事業)
(海外の自動車関連部品の拡大へ集中)

稼働率安定



利益目標達成！

日本の金型事業においては、医療用品関連分野・食品容器関連分野への集中をさらに進め、当社のノウハウを生かせる新規受注の獲得に注力します。

また、成形品事業の稼働率安定に向け、受注の波が比較的少ない自動車関連部品(2輪・4輪)分野への集中を進め、年間の稼働率の安定により目標とする連結利益の達成を目指します。

中期的な受注拡大に向けて、自動車市場の拡大が続くインドネシアに自動車関連部品を中心とした製造子会社を2012年に設立し、2013年10月より操業を開始し、安定稼働に向けた活動に取り組んでおります。

2016/12月期事業計画

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

16

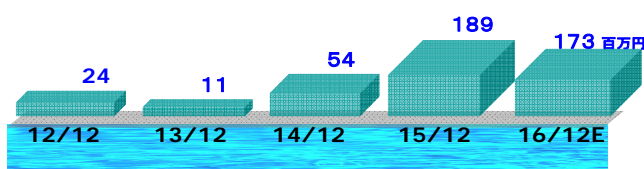
2016年12月期の事業計画をご説明いたします。

16/12月期通期計画(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

(百万円)	15/12月期実績	16/12月期計画	増減額	増減率%
売上高	5,539	5,372	▲167	▲3.0
売上総利益	1,167	1,140	▲27	▲2.3
販管費	977	967	▲10	▲1.0
営業利益	189	173	▲16	▲8.5
経常利益	▲53	29	82	—
当期純利益	▲64	18	82	—
設備投資	471	100	▲371	▲78.8
減価償却費	285	361	76	26.7

営業利益の推移



<営業利益計画のポイント>

◆インドネシア創業赤字縮小

◆コスト構造の改革

①内製化 → 外注費削減

②自動化 → 人件費抑制



営業利益計画達成へ

17

2016年12月期は、昨年度に引き続き当社グループ全体で各事業の選択と集中をさらに進め、精密成形品事業では、自動車関連製品へのシフトによる収益の拡大、および日本でのディスクケース製品のシェア拡大による安定収益の確保、ならびに東南アジアでの受注拡大に伴う増産体制の整備を進め、インドネシア子会社の創業赤字の縮小を進めて参ります。

精密金型事業では、日本市場で医療関連製品・食品容器関連製品、中国市場で常州不二精機において医療関連製品に集中した営業活動、およびグループ内で連携した固定費圧縮・内製化の推進などの生産性向上活動を実施し、安定収益の確保を目指します。

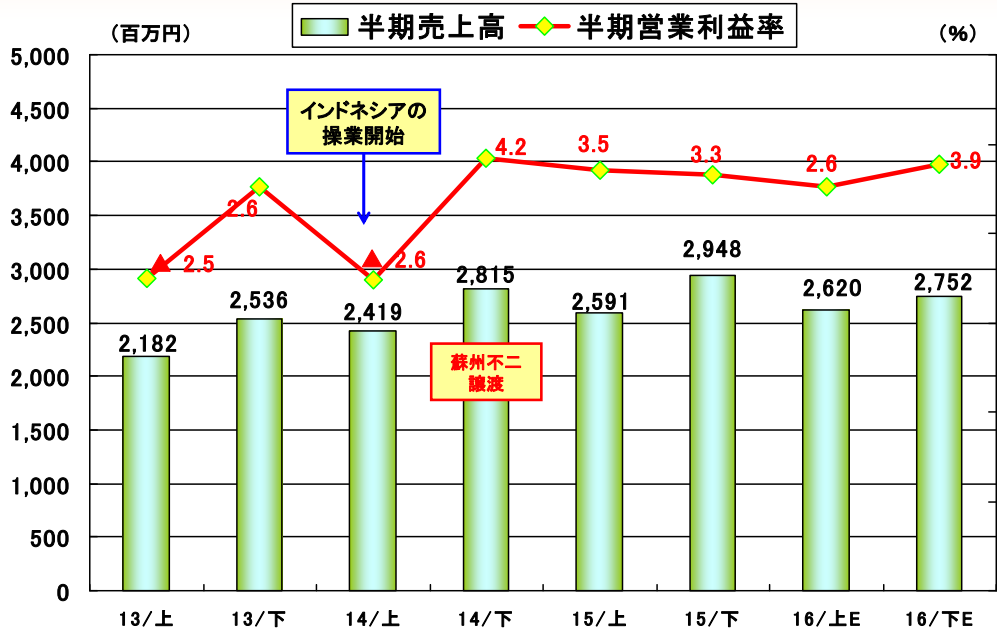
以上の方針により、2016年12月期の売上高は、中国経済の減速の影響を勘案し、また金型事業における受注の更なる選択と集中を進めることなどにより、前期比167百万円の減収を計画しております。

営業利益は、稼働率の向上によるインドネシア子会社の創業赤字の縮小、自動化/半自動化による人件費抑制を中心としたコスト構造の改革を確実に実施するものの、売上高の減少を計画することから、前期比16百万円減の173百万円を計画しております。

債権債務の評価による為替差損益は想定せず、経常利益29百万円、当期純利益18百万円を計画しております。

半期毎の業績推移(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



18

2016年12月期は、当社グループ全体で各事業の選択と集中をさらに進め、精密成形品事業では、自動車関連製品へのシフトによる収益の拡大、および日本でのディスクケース製品のシェア拡大による安定収益の確保、ならびに東南アジアでの受注拡大に伴う増産体制の整備を進め、一昨年度操業を開始しましたインドネシア子会社の創業赤字の縮小を進めて参ります。

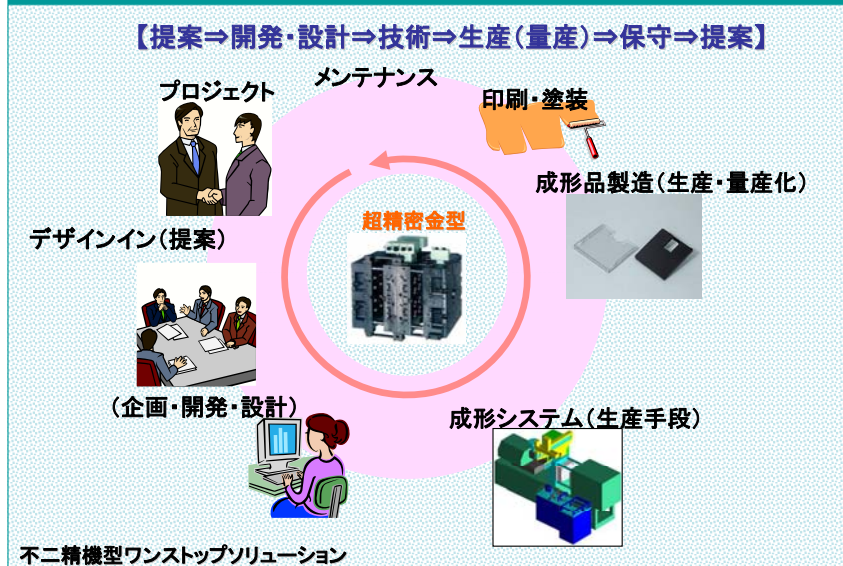
中期事業戦略

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

19

中期事業戦略についてご説明いたします。

“プラスチック精密成形総合システム会社”として、
不二精機型ワンストップソリューションを 今後もさらに展開する

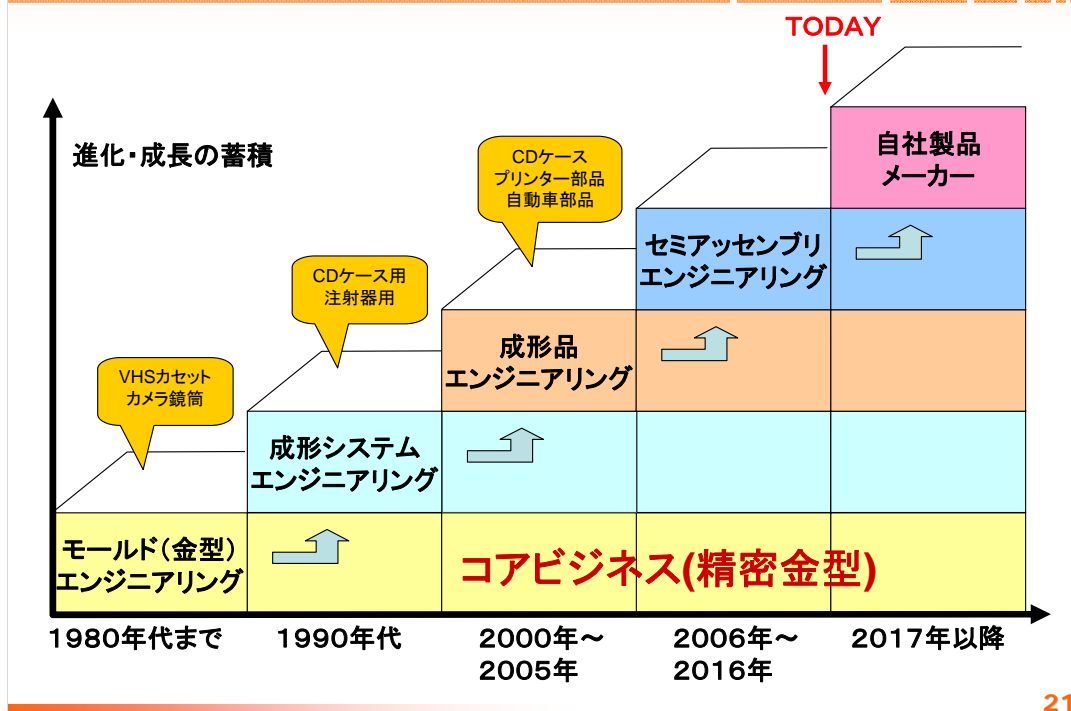


当社グループの総力で、金型の製作だけでなく、製品の企画段階より製品での納品まで(ワンストップソリューション)、精密金型技術をコア技術として、顧客のニーズに最適なものづくりを提案いたします。

上図それぞれのステップ(金型製作のみ、成形品製造のみ等)単位でのご相談もお受けしております。

不二精機の歩みと今後

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



1955年の創業以来、「精密小物向け金型では、他社に負けない」を合言葉に、着々と顧客のご支援を頂きながら成長してまいりました。

1984年頃には、金型から生み出される成形品そのものの精密さが必要とされる商品向けの精密金型に加え、成形品1個当たりのコストが重視される大量生産品向けの金型にも当社の精密金型を必要とされることから、大量生産品向けマーケットへ進出しました。

1990年代より、単に金型単体での販売だけでなく、顧客が求める成形品を生産するために必要な生産設備(成形機、取出し機、自動組立機等)も併せての販売を開始しております。

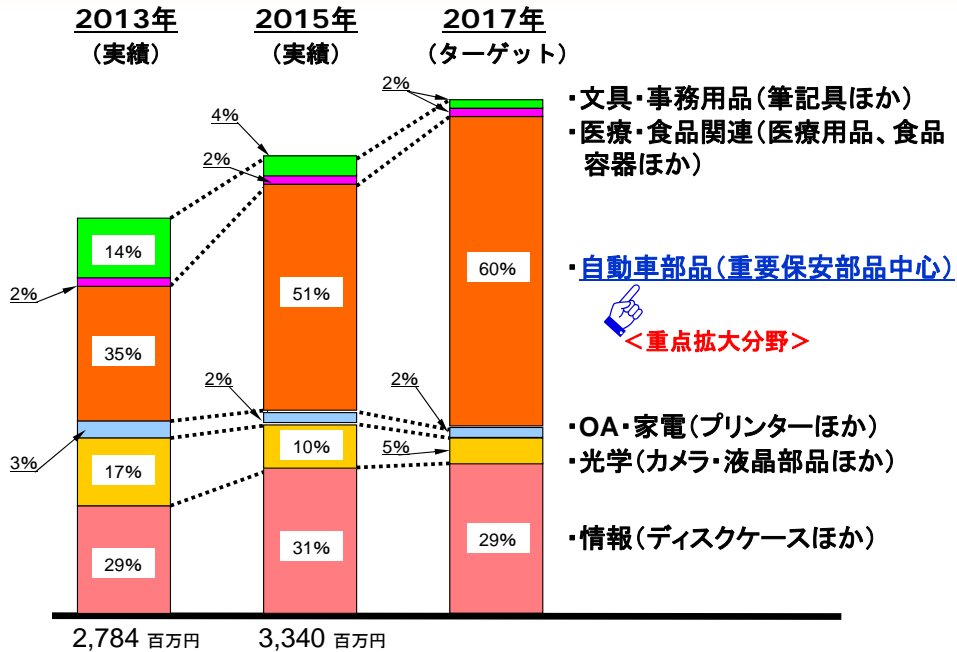
2000年からは精密金型をコアとし、タイ、中国にある当社海外グループ会社等において成形品製造・販売を主体としたビジネスを展開しております。

2006年以降は、成形品の販売のみならず、成形品への印刷・塗装及びセミアッセンブリにも事業を拡大しております。

2017年以降には、当社の強みである精密金型技術を活かした自社製品メーカーを目指します。

成形品売上<分野別ターゲット>

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



22

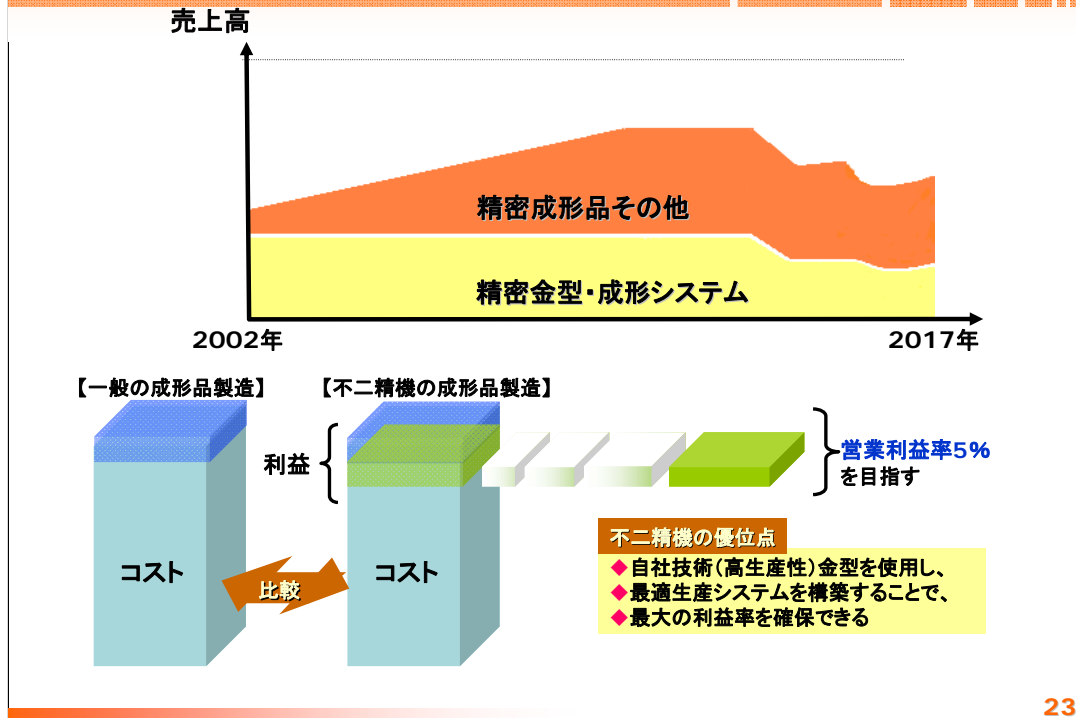
精密成形品売上の中で、市場が縮小方向にあるデジタルカメラほかの光学分野は減少を計画し、国内市場でのディスクケース製品は新製品効果などにより横ばいを計画しております。

受注の波が少ない自動車部品分野の拡大に集中し、利益率向上の課題である年間平均稼働率を高めることにより、利益率の改善および利益額の確保を目指します。

当事業の拡大には、当社グループの強みである高生産性金型技術および品質管理の整備された成形品量産体制を戦略的に活用いたします。

中期的展望

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



2008年から2009年にかけて精密金型事業、精密成形品事業ともに世界同時不況により、2011年から2012年は東日本大震災およびタイの洪水の影響を受け減収となりました。

精密成形品事業では、安定稼動と利益率の向上を目指し、自動車部品の分野の拡大を推進いたします。

精密金型事業においては、強みのある医療機器、食品容器の金型販売および精密成形品事業の受注拡大につながる金型製造に注力いたします。併せて、さらなるコスト構造の改革により製造原価の低減を進め、当事業の利益率の改善を目指します。

以上の活動により、営業利益率5%の達成を中期目標としております。

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



お問合せ先

管理本部
TEL:06-4306-6822

24

ありがとうございました。